

# 三浦半島脱炭素モデル地域事業計画 モビリティを核としたゼロカーボン半島の実現

## 三浦半島地域の特性・課題

### ■ 対象地域

- 横須賀市、鎌倉市、逗子市、三浦市及び葉山町

### ■ 地域特性と課題

- 本地域は都心アクセスが良好ながら海と山に囲まれて暮らせる自然環境が大きな魅力であり、それを生かした産業が盛んであるが、一方で少子高齢化が県内他地域に先んじて進展している。
- そのため今後は、関係人口・交流人口の増加や交通不便さ・渋滞の解消へ取り組むことが求められている。



### 地域特性

### 地域の共通課題



産業

#### 地域資源を生かした産業

- ✓ 自然の観光資源を活用した観光業や、農畜水産業が盛ん



生活

#### 少子高齢化の進展

- ✓ 既に人口減、高齢化率も30%超
- ✓ 県内では少子高齢化が深刻な地域



自然環境

#### 豊かな自然環境

- ✓ 都心から40-60km圏内にありながら、海と山に囲まれた豊かな自然環境

#### 関係人口・交流人口の増加

- 県内で特に人口減少、高齢化の進んでいる地域であり、また、入込観光人口も新型コロナウイルスの影響で減少しており、「仕事」や「観光」などの切り口により、地域の関係人口や交流人口を増やし、地域の賑わいを作る必要がある。

#### 交通不便さ・渋滞の解消

- 半島特有の交通利便性の悪さや観光シーズンには観光客が大量流入し交通渋滞やマイカーの温室効果ガス排出への対応などが求められる。

## 検討方向性

### ■ 三浦半島が目指す将来像

#### 脱炭素で創り上げる三浦半島らしいライフスタイル！



#### 新しいワーク & ライフスタイルを地域内外に発信して下記を実現

地域のブランド確立、  
魅力度アップ

新たな人の流れを創出、  
関係（交流）人口増加

防災力が向上、  
快適な住環境を実現

### ■ 具体施策の方針

- 観光型Maas「三浦COCOON」をはじめとした既存の取組を生かし、本地域の共通課題である交通不便さ・渋滞の解消に取り組むために、三浦半島魅力最大化プロジェクトなど、既存の県施策との連動も含め、本事業ではモビリティサービスを核としたゼロカーボン施策について検討を深めることとした。

#### モビリティ×ゼロカーボンの課題

<b>脱炭素モビリティの拡大</b> ✓ 地域の魅力である自然環境を守るためのモビリティ脱炭素化	<b>EV活用の推進</b> <b>モビリティの再エネ活用</b>
<b>地域内交通の利便性向上</b> ✓ 関係人口の増加・維持のための移動利便性向上	<b>交通渋滞解消</b> <b>交通難民の解消</b>
<b>効果拡大のための仕組みづくり</b> ✓ 脱炭素モビリティの環境効果最大化の仕組み整備	<b>県内再エネ地産地消の拡大</b>

#### 施策の検討方針

4つの柱で検討

- ①モビリティのEV化
- ②モビリティを活用したVPP
- ③脱マイカーへの行動変容
- ④再エネやクレジットの活用



# 今後の検討項目

## ■ 今後の検討項目

➤ 本事業計画で検討した各施策を着実に推進するために、今後は[検討体制の立ち上げやメリット・将来展開の精査](#)など、下記3点について検討を深める必要がある。

### ① 事業実施に向けた連携体制



- 関係市町や民間事業者と連携して本事業計画に取り組むために、**関連プレイヤーが集まり事業の検討・推進に向けて連携する体制**が必要である。
- この体制の中では、本事業計画に留まらず関係人口増加に向けた様々な施策を取り扱うことも想定される。

当面の  
検討内容

#### 巻き込むべきプレイヤーの整理

自治体や交通事業者以外に、連携する各種業種の巻き込みが想定される。COCOONファミリーなど既存枠組の活用も検討する。

(以下は現時点での想定内容であり、これらをベースに今後検討を進める)

#### ■ 現時点で想定される関連プレイヤー (これまでの取組内容などから想定)

自治体	民間事業者	
県及び三浦半島地域4市1町	交通事業者	金融機関
鎌倉市 三浦市 葉山町 逗子市 横須賀市 神奈川県	京急電鉄	横浜銀行
	観光事業者	小売事業者
	具体的なプレイヤーは今後検討	

### ② 地域に与えるメリット



- 検討した施策の実行にあたっては、関係市町や民間事業者の協力が不可欠である。
- そこで積極的な協力を得るために、**CO2削減効果以外の効果 (主に金銭的に算出可能なメリット)**について引き続き整理を進める必要がある。

当面の  
検討内容

#### 想定される効果の整理

モビリティサービスなどの充実による効果や、関係人口の増加・地域の賑わいの増加による経済効果について検討・試算を行う。

#### ■ 現時点で想定される効果

右記を実現	EVEモビリティサービスやインセンティブの導入・普及	オフの場の充実 観光地の賑わい増加	オンの場の整備 新たなワークスタイル確立
		①観光客増加	②定住人口増加
	交通渋滞の緩和 関係人口増による新たな交通渋滞も抑制	【参考】観光客消費額* ・宿泊客:18,699円/人 ・日帰り客:5,317円/人	【参考】勤労者世帯消費額* ・年間約627万円/世帯

### ③ 地域外への横展開可能性



- 本計画で検討した施策を、同じ施策が有効と考えられる県内他地域へ横展開し、**CO2削減効果の拡大や地域課題解決の広がり**を見込む。
- 横展開で事業規模が拡大することで、スケールメリットやサービスの普及・定着といった効果も期待される。

当面の  
検討内容

#### 県内の地域課題を整理し、横展開の候補地域を抽出

県内他地域の地域課題を整理して横展開の有望候補となる地域を抽出し、今後の横展開計画について検討する。

#### ■ 現時点で想定される横展開地域

同じような移動課題を抱える地域
観光渋滞が頻繁に発生 県西地域 箱根エリア 湘南地域 江の島エリア など
移動難民が増加すると想定 川崎・横浜地域、及び県央地域 高齢化が進むニュータウン全般

#### ■ 現時点で想定される横展開の効果

①導入・保守のスケールメリット	EV台数などの規模拡大により、導入コストや保守コストが低減
②EVEモビリティサービスの普及・定着	県内の様々な地域でEVEモビリティサービスやインセンティブが普及し、日常的な利用が促進